

令和4年度 横浜市立新羽中学校 学校経営について

校長 荻野 弘

◆学校教育目標◆ 『自律・共生・創造』

◇自律

- ・自らの生活を見つめ、心身ともにたくましく生きる力を育成する。—（体）
- ・主体的に考え、粘り強く学び続ける力を育成する。—（知）

◇共生

- ・多様性を尊重し、互いを思いやり、共に生きる力を育成する。—（徳公）
- ・公共の意識をもち、地域と社会に貢献する心を育成する。—（徳公）

◇創造

- ・知識や経験を活かし、持続可能な未来を切り拓く力を育成する。—（知開）
- ・広い視野と深い視点をもち、様々な情報を活用する力を育成する。—（知開）

◆学校経営方針◆ 〈学校教育目標実現のための学校経営の6つの柱〉

- ①「すべての教育活動は子どもの成長と将来の幸せのために」「人権尊重の精神」を私たち教職員の基本理念とし、「生徒が主役」の学校づくりに努める。
- ②生徒一人ひとりが「笑顔で元気に」安心して学べる落ち着いた教育環境をつくる。
- ③教職員一人ひとりが自らの専門性や持ち味を活かし、情報を共有し、お互いに支え合い団結力のある組織をつくり、教育活動をすすめる。
- ④生徒が意欲的に学ぶための学習指導と学習評価の改善に努める。
- ⑤常に危機管理意識をもち、細かなことを疎かにせず、先を見通した計画と実施に努める。
- ⑥保護者、地域、小学校と連携して、「地域ともに9年間で地域の未来を支える子ども」を育てるという理念をみんなで共有する。

◆学校教育目標の達成に向けた重点項目◆

①-1 教師の使命と役割を自覚する。

- ・教師が生徒の人格形成やその後の人生に及ぼす影響を深く自覚して、職務を遂行する。

①-2 教師としての人権感覚を磨き、高める。

- ・「一人を大切に」を合言葉に、生徒一人ひとりの人権を尊重する意識をもつ。
- ・令和3,4年度の港北区人権教育実践推進校としての取組を好機としてとらえ、教師として必要な人権感覚を高め、人権教育を充実させる。

①-3 SDGsの推進

- ・生徒たちが持続可能な社会をつくり、豊かな人生を歩むことのできる力を育成する。

②-1 生徒指導の充実

- ・生徒たちが落ち着いて生活している状況だからこそ、生徒たちの関わりを深め、さらに信頼関係を構築し、生徒の思いをとらえて、指導を進める。
- ・生徒たちの様子をしっかりと見て、ほめる時、指導すべき時を見逃さない。
- ・「いじめ」防止に向けての予防、早期発見・早期対応を組織的に取り組む。

②-2 学級指導の充実

- ・生徒一人ひとりがコミュニケーション能力を高め、互いに信頼関係を深め、違いを認め

合い、支え合うことのできる集団づくりに努める。

②-3 特別支援教育の推進

- ・「個に応じた指導」の充実を意識して、日々の教育活動を実践する。
- ・ユニバーサルデザインを生かした授業改善を進める。
- ・不登校生徒等の校内での「居場所づくり」と指導の充実に向けてに組織的に取り組む。
- ・これからの共生社会の実現に向けて、障害のある人もない人もお互いを理解し尊重できる子どもを育成する。

②-4 「安全・安心」を第一に考えた教育活動を行う。

- ・ガイドラインに基づき、感染症対策と健康管理に注意した教育活動を行う。
- ・様々な活動を積極的に行い、健康であることの意義を理解させる。

③-1 学校経営への参画意識の向上

- ・教職員が自分の立場や役割において「自分たちの学校は自分たちでより良いものにする」という学校経営への参画意識をもち学校運営を行う。

③-2 OJTの効果的な推進

- ・経験やキャリアステージに応じて、人材育成の役割を意識し、日常業務の中で学び合う姿勢や雰囲気醸成する。

③-2 「働き方改革」の推進

- ・教職員全体で「働き方改革」について考え、働きやすい職場環境をつくる。

④-1 意欲的な授業改善

- ・今までの指導法を振り返り、「主体的、対話的で深い学び」を充実させる。
- ・3観点の改訂の趣旨を踏まえ、信頼性のある評価計画を作成する。

④-2 ICTを活用した学習指導等を積極的に実践する。

- ・通常の対面での授業が困難な場合を想定して、オンラインでの授業が進められるように準備を進める。
- ・通常の授業や特別活動等でも積極的にICTを活用し、生徒が意欲的かつ効果的に授業が進められるようにする。

⑤-1 教職員間での情報の共有

- ・「報・連・相」を徹底し、小さな変化にも気づく感性を養う。

⑤-2 教職員研修の充実

- ・学校におけるあらゆる危機を想定し、未然防止に努めるとともに、迅速かつ適切な対応ができるようにする。

⑥-1 小中ブロックの連携の強化

- ・「9年間で育てる子ども像」を小・中学校の教職員で共有し、各教科や校務分掌組織で連続性のある段階的な指導計画を作成する。

⑥-2 地域との連携の強化

- ・地域行事へ生徒・教職員が積極的に参加し、地域の方々との人間関係を深め、地域の一員であることを実感させる。

⑥-3 地域の経営資源の活用

- ・学校・地域コーディネーターの依頼や地域の理解に関する取組について持続可能な地域と学校との協働を模索する。